

# ダイワ短期国際機関債ファンド (毎月分配型)－成長の絆－ (年2回決算型)－成長の絆(年2回)－

## 運用報告書 (全体版)

毎月分配型  
 第97期 (決算日 2023年2月21日)  
 第98期 (決算日 2023年3月22日)  
 第99期 (決算日 2023年4月21日)  
 第100期 (決算日 2023年5月22日)  
 第101期 (決算日 2023年6月21日)  
 第102期 (決算日 2023年7月21日)  
 年2回決算型 第16期 (決算日 2023年7月21日)  
 (作成対象期間 2023年1月24日～2023年7月21日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	毎月分配型	2015年1月22日～2025年1月21日
	年2回決算型	2015年10月15日～2025年1月21日
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ短期国際機関債マザーファンドの受益証券
	ダイワ短期国際機関債マザーファンド	新興国通貨建ての国際機関債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	毎月分配型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、第1および第2計算期末には、収益の分配は行ないません。
	年2回決算型	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、経費控除後の配当等収益等を中心に分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、国際機関が発行する新興国通貨建債券に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
 お問い合わせ先（コールセンター）  
 TEL 0120-106212  
 (営業日の9:00～17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<5649>  
<2702>

（毎月分配型）－成長の絆－

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算)		公社債率 組入比率	債券先物率 比	純総資産額
	(分配落)	税込 分配 金 円	期中 騰落率 %	(参考指数)	期中 騰落率 %			
73 期末(2021年 2月22日)	円 5,898	円 30	% 1.9	10,523	0.7	% 95.3	% -	百万円 1,144
74 期末(2021年 3月22日)	5,925	30	1.0	10,528	0.0	95.0	-	1,146
75 期末(2021年 4月21日)	5,883	30	△0.2	10,519	△0.1	94.6	-	1,098
76 期末(2021年 5月21日)	6,018	30	2.8	10,748	2.2	93.6	-	1,100
77 期末(2021年 6月21日)	6,018	30	0.5	10,818	0.7	93.4	-	1,079
78 期末(2021年 7月21日)	5,938	30	△0.8	10,699	△1.1	94.8	-	1,027
79 期末(2021年 8月23日)	5,839	30	△1.2	10,587	△1.0	94.2	-	996
80 期末(2021年 9月21日)	5,903	30	1.6	10,658	0.7	95.3	-	972
81 期末(2021年10月21日)	6,127	30	4.3	10,983	3.0	94.1	-	977
82 期末(2021年11月22日)	5,786	30	△5.1	10,708	△2.5	94.4	-	905
83 期末(2021年12月21日)	5,595	30	△2.8	10,570	△1.3	94.8	-	866
84 期末(2022年 1月21日)	5,690	30	2.2	10,780	2.0	93.0	-	863
85 期末(2022年 2月21日)	5,788	30	2.2	11,022	2.2	94.9	-	861
86 期末(2022年 3月22日)	5,747	30	△0.2	10,601	△3.8	95.4	-	837
87 期末(2022年 4月21日)	6,148	30	7.5	11,208	5.7	94.2	-	884
88 期末(2022年 5月23日)	5,941	30	△2.9	10,784	△3.8	94.5	-	847
89 期末(2022年 6月21日)	6,132	30	3.7	11,142	3.3	96.5	-	839
90 期末(2022年 7月21日)	6,031	30	△1.2	11,105	△0.3	96.0	-	816
91 期末(2022年 8月22日)	6,041	20	0.5	11,328	2.0	96.0	-	804
92 期末(2022年 9月21日)	6,259	20	3.9	11,706	3.3	95.6	-	806
93 期末(2022年10月21日)	6,362	20	2.0	11,687	△0.2	93.1	-	806
94 期末(2022年11月21日)	6,164	20	△2.8	11,473	△1.8	94.8	-	764
95 期末(2022年12月21日)	5,874	20	△4.4	11,097	△3.3	93.3	-	725
96 期末(2023年 1月23日)	5,913	20	1.0	11,351	2.3	93.5	-	720
97 期末(2023年 2月21日)	6,028	20	2.3	11,566	1.9	93.8	-	733
98 期末(2023年 3月22日)	5,940	20	△1.1	11,471	△0.8	94.6	-	708
99 期末(2023年 4月21日)	6,209	20	4.9	11,980	4.4	95.5	-	734
100 期末(2023年 5月22日)	6,273	20	1.4	12,263	2.4	95.5	-	732
101 期末(2023年 6月21日)	6,678	20	6.8	12,902	5.2	95.4	-	772
102 期末(2023年 7月21日)	6,712	20	0.8	13,039	1.1	95.5	-	765

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロード ダイバーシファイド (円換算) は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド (米ドルベース) は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

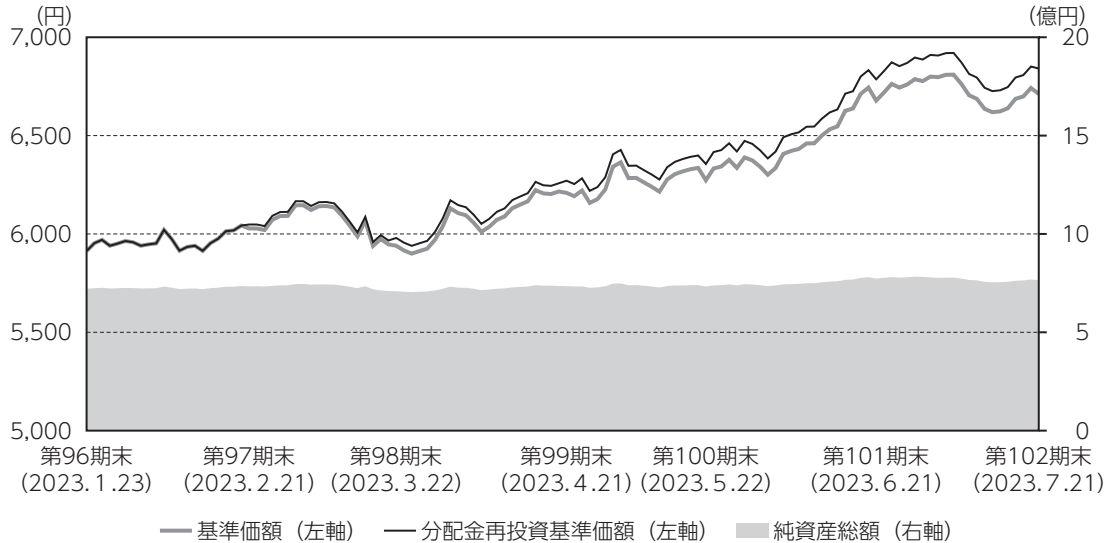
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率・売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

第 97 期首：5,913円  
 第102期末：6,712円（既払分配金120円）  
 騰 落 率：15.7%（分配金再投資ベース）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇（円安）したことや債券価格の上昇、利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ短期国際機関債ファンド（毎月分配型）－成長の絆－

	年 月 日	基 準 価 額		JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円 換 算) (参考指数)		公 社 債 率 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
			騰 落 率		騰 落 率		
第 97 期	(期首) 2023年1月23日	円 5,913	% －	11,351	% －	% 93.5	% －
	1月末	5,958	0.8	11,501	1.3	87.5	－
	(期末) 2023年2月21日	6,048	2.3	11,566	1.9	93.8	－
第 98 期	(期首) 2023年2月21日	6,028	－	11,566	－	93.8	－
	2月末	6,091	1.0	11,659	0.8	94.0	－
	(期末) 2023年3月22日	5,960	△1.1	11,471	△0.8	94.6	－
第 99 期	(期首) 2023年3月22日	5,940	－	11,471	－	94.6	－
	3月末	6,130	3.2	11,812	3.0	94.5	－
	(期末) 2023年4月21日	6,229	4.9	11,980	4.4	95.5	－
第100期	(期首) 2023年4月21日	6,209	－	11,980	－	95.5	－
	4月末	6,226	0.3	11,995	0.1	95.9	－
	(期末) 2023年5月22日	6,293	1.4	12,263	2.4	95.5	－
第101期	(期首) 2023年5月22日	6,273	－	12,263	－	95.5	－
	5月末	6,342	1.1	12,404	1.1	95.6	－
	(期末) 2023年6月21日	6,698	6.8	12,902	5.2	95.4	－
第102期	(期首) 2023年6月21日	6,678	－	12,902	－	95.4	－
	6月末	6,800	1.8	13,173	2.1	94.9	－
	(期末) 2023年7月21日	6,732	0.8	13,039	1.1	95.5	－

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2023.1.24～2023.7.21)

### ■債券市況・為替相場

新興国債券市況は、各国のインフレ率の減速やリスク選好度の高まりなどにより、新興国債券への選好が強まったことを受けて、多くの国で金利は低下（債券価格は上昇）しました。新興国為替相場は、F R B（米国連邦準備制度理事会）の金融引き締め観測から米国金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨は対円で上昇しました。

#### ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、F R Bの金融引き締め観測から米国金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。

#### ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行の当局者が当面の政策金利据え置きを示唆したことや、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、国内の電力不足に対する懸念やロシアへの武器提供疑惑により、対円で下落（円高）する局面もありましたが、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中南米地域

ブラジル・レアルは、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げ姿勢や高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## ポートフォリオについて

(2023.1.24～2023.7.21)

### ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

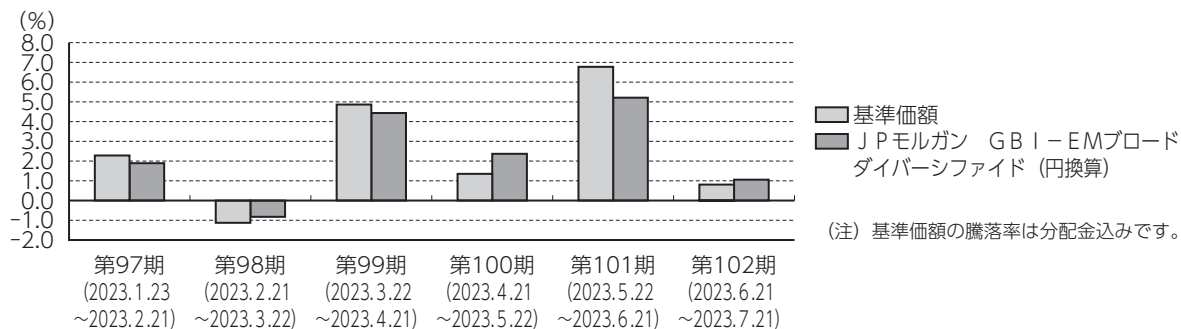
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期
	2023年1月24日 ～2023年2月21日	2023年2月22日 ～2023年3月22日	2023年3月23日 ～2023年4月21日	2023年4月22日 ～2023年5月22日	2023年5月23日 ～2023年6月21日	2023年6月22日 ～2023年7月21日
当期分配金（税込み）（円）	20	20	20	20	20	20
対基準価額比率（％）	0.33	0.34	0.32	0.32	0.30	0.30
当期の収益（円）	20	14	20	20	20	20
当期の収益以外（円）	－	5	－	－	－	－
翌期繰越分配対象額（円）	165	160	162	164	168	171

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計上で、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 20.21円	✓ 14.27円	✓ 22.50円	✓ 21.91円	✓ 23.58円	✓ 23.20円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	37.85	38.03	38.14	38.33	38.43	38.53
(d) 分配準備積立金	127.91	✓ 127.96	122.12	124.45	126.27	129.76
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	185.98	180.27	182.77	184.70	188.29	191.50
(f) 分配金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	165.98	160.27	162.77	164.70	168.29	171.50

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第97期～第102期 (2023.1.24～2023.7.21)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	45円	0.718%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は6,261円です。
（投 信 会 社）	(20)	(0.322)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(24)	(0.375)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.011	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(0)	(0.007)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	46	0.729	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

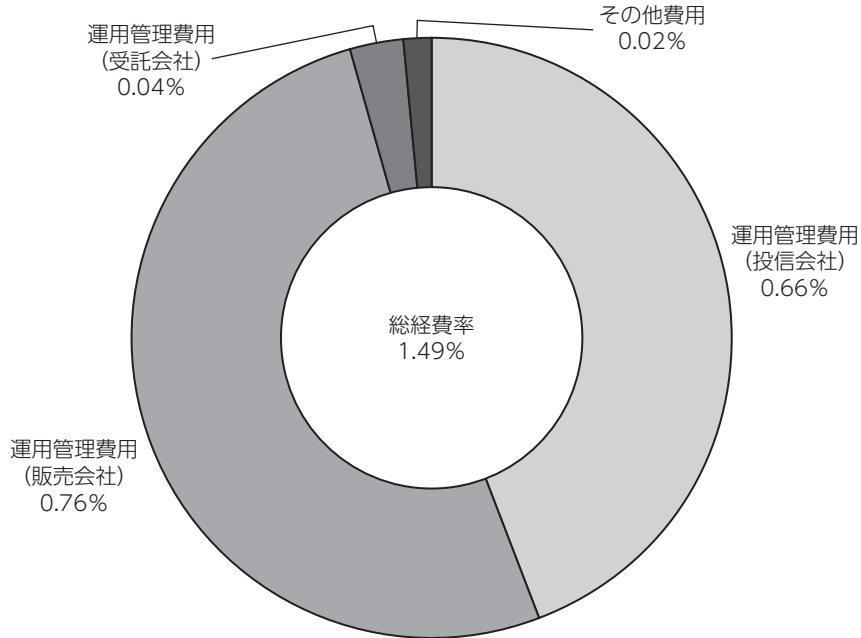
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.49%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

# ダイワ短期国際機関債ファンド（毎月分配型）－成長の絆－

## ■売買および取引の状況

### 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2023年1月24日から2023年7月21日まで)

決算期	第97期～第102期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	1,611	1,891	60,875	71,335

(注) 単位未満は切捨て。

## ■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

## ■組入資産明細表

### 親投資信託残高

種類	第96期末	第102期末	
	□数	□数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	658,175	598,910	761,515

(注) 単位未満は切捨て。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2023年2月21日)、(2023年3月22日)、(2023年4月21日)、(2023年5月22日)、(2023年6月21日)、(2023年7月21日)現在

項目	第97期末	第98期末	第99期末	第100期末	第101期末	第102期末
<b>(A) 資産</b>	<b>736,722,543円</b>	<b>711,839,893円</b>	<b>741,032,520円</b>	<b>736,036,079円</b>	<b>776,013,223円</b>	<b>768,272,921円</b>
コール・ローン等	6,689,086	6,699,383	6,706,352	6,711,147	6,802,444	6,757,876
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	730,033,457	705,140,510	731,143,000	729,324,932	769,210,779	761,515,045
未収入金	—	—	3,183,168	—	—	—
<b>(B) 負債</b>	<b>3,287,572</b>	<b>3,253,491</b>	<b>6,319,142</b>	<b>3,276,756</b>	<b>3,244,176</b>	<b>3,239,893</b>
未払収益分配金	2,433,239	2,385,994	2,366,495	2,336,210	2,314,310	2,279,571
未払解約金	—	—	3,065,800	—	—	—
未払信託報酬	849,593	857,972	872,452	921,012	905,282	930,544
その他未払費用	4,740	9,525	14,395	19,534	24,584	29,778
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>733,434,971</b>	<b>708,586,402</b>	<b>734,713,378</b>	<b>732,759,323</b>	<b>772,769,047</b>	<b>765,033,028</b>
元本	1,216,619,601	1,192,997,454	1,183,247,851	1,168,105,151	1,157,155,289	1,139,785,858
次期繰越損益金	△ 483,184,630	△ 484,411,052	△ 448,534,473	△ 435,345,828	△ 384,386,242	△ 374,752,830
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>1,216,619,601口</b>	<b>1,192,997,454口</b>	<b>1,183,247,851口</b>	<b>1,168,105,151口</b>	<b>1,157,155,289口</b>	<b>1,139,785,858口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	6,028円	5,940円	6,209円	6,273円	6,678円	6,712円

\*当作成期首における元本額は1,219,162,827円、当作成期間(第97期～第102期)中における追加設定元本額は7,040,743円、同解約元本額は86,417,712円です。

\*第102期末の計算口数当りの純資産額は6,712円です。

\*第102期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は374,752,830円です。

## ■投資信託財産の構成

2023年7月21日現在

項目	第102期末	
	評価額	比率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	761,515	99.1
コール・ローン等、その他	6,757	0.9
投資信託財産総額	768,272	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月21日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=140.09円、1メキシコ・ペソ=8.30円、1インド・ルピー=1.72円、100インドネシア・ルピア=0.94円、1ブラジル・レアル=29.178円、1南アフリカ・ランド=7.81円、1ポーランド・ズロチ=35.038円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、第102期末における外貨建純資産(780,926千円)の投資信託財産総額(782,294千円)に対する比率は、99.8%です。

■損益の状況

第97期 自2023年1月24日 至2023年2月21日 第100期 自2023年4月22日 至2023年5月22日  
 第98期 自2023年2月22日 至2023年3月22日 第101期 自2023年5月23日 至2023年6月21日  
 第99期 自2023年3月23日 至2023年4月21日 第102期 自2023年6月22日 至2023年7月21日

項 目	第 97 期	第 98 期	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期
(A) 配当等収益	△ 52円	△ 31円	△ 17円	△ 149円	△ 198円	△ 162円
支払利息	△ 52	△ 31	△ 17	△ 149	△ 198	△ 162
(B) 有価証券売買損益	17,308,954	7,364,322	35,161,633	10,704,823	50,102,733	7,078,749
売買益	17,309,253	179,116	35,382,294	10,805,270	50,220,930	7,209,679
売買損	△ 299	△ 7,543,438	△ 220,661	△ 100,447	△ 118,197	△ 130,930
(C) 信託報酬等	△ 854,333	△ 862,757	△ 877,322	△ 926,151	△ 910,332	△ 935,738
(D) 当期損益金(A+B+C)	16,454,569	△ 8,227,110	34,284,294	9,778,523	49,192,203	6,142,849
(E) 前期繰越損益金	△442,642,184	△419,773,812	△426,476,737	△388,968,119	△377,667,830	△325,596,870
(F) 追加信託差損益金	△ 54,563,776	△ 54,024,136	△ 53,975,535	△ 53,820,022	△ 53,596,305	△ 53,019,238
(配当等相当額)	( 4,606,060)	( 4,537,006)	( 4,513,995)	( 4,478,419)	( 4,447,964)	( 4,392,228)
(売買損益相当額)	(△ 59,169,836)	(△ 58,561,142)	(△ 58,489,530)	(△ 58,298,441)	(△ 58,044,269)	(△ 57,411,466)
(G) 合計(D + E + F)	△480,751,391	△482,025,058	△446,167,978	△433,009,618	△382,071,932	△372,473,259
(H) 収益分配金	△ 2,433,239	△ 2,385,994	△ 2,366,495	△ 2,336,210	△ 2,314,310	△ 2,279,571
次期繰越損益金(G+H)	△483,184,630	△484,411,052	△448,534,473	△435,345,828	△384,386,242	△374,752,830
追加信託差損益金	△ 54,563,776	△ 54,024,136	△ 53,975,535	△ 53,820,022	△ 53,596,305	△ 53,019,238
(配当等相当額)	( 4,606,060)	( 4,537,006)	( 4,513,995)	( 4,478,419)	( 4,447,964)	( 4,392,228)
(売買損益相当額)	(△ 59,169,836)	(△ 58,561,142)	(△ 58,489,530)	(△ 58,298,441)	(△ 58,044,269)	(△ 57,411,466)
分配準備積立金	15,588,404	14,583,353	14,746,840	14,761,182	15,026,845	15,155,959
繰越損益金	△444,209,258	△444,970,269	△409,305,778	△396,286,988	△345,816,782	△336,889,551

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第 97 期	第 98 期	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期
(a) 経費控除後の配当等収益	2,459,568円	1,702,698円	2,662,476円	2,559,511円	2,729,238円	2,644,593円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	4,606,060	4,537,006	4,513,995	4,478,419	4,447,964	4,392,228
(d) 分配準備積立金	15,562,075	15,266,649	14,450,859	14,537,881	14,611,917	14,790,937
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	22,627,703	21,506,353	21,627,330	21,575,811	21,789,119	21,827,758
(f) 分配金	2,433,239	2,385,994	2,366,495	2,336,210	2,314,310	2,279,571
(g) 翌期繰越分配対象額(e-f)	20,194,464	19,120,359	19,260,835	19,239,601	19,474,809	19,548,187
(h) 受益権総口数	1,216,619,601□	1,192,997,454□	1,183,247,851□	1,168,105,151□	1,157,155,289□	1,139,785,858□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
	第 97 期	第 98 期	第 99 期	第 100 期	第 101 期	第 102 期
1万口当り分配金（税込み）	20円	20円	20円	20円	20円	20円

●＜分配金再投資コース＞をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

（年2回決算型）－成長の絆（年2回）－

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			JPMorgan GBI-EM ブロードダイバーシファイド (円換算)		公社債 組入比率	債券先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
12期末(2021年7月21日)	9,029	50	5.2	11,750	2.4	94.5	－	14
13期末(2022年1月21日)	8,873	50	△ 1.2	11,838	0.8	92.7	－	14
14期末(2022年7月21日)	9,636	50	9.2	12,195	3.0	95.8	－	16
15期末(2023年1月23日)	9,598	50	0.1	12,466	2.2	93.3	－	18
16期末(2023年7月21日)	10,900	200	15.6	14,319	14.9	95.2	－	20

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロードダイバーシファイド(円換算)は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマーシング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマーシング・マーケットズブロードダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■基準価額・騰落率

期首：9,598円

期末：10,900円（分配金200円）

騰落率：15.6%（分配金込み）

#### ■基準価額の主な変動要因

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇（円安）したことや債券価格の上昇、利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		J Pモルガン G B I - E M ブロード ダイバーシファイド (円 換 算)		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2023年1月23日	円 9,598	% -	12,466	% -	% 93.3	% -
1月末	9,671	0.8	12,630	1.3	87.2	-
2月末	9,919	3.3	12,804	2.7	93.8	-
3月末	10,017	4.4	12,972	4.1	94.3	-
4月末	10,206	6.3	13,173	5.7	95.7	-
5月末	10,428	8.6	13,622	9.3	95.4	-
6月末	11,213	16.8	14,467	16.0	94.6	-
(期末) 2023年7月21日	11,100	15.6	14,319	14.9	95.2	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2023.1.24~2023.7.21)

### ■債券市況・為替相場

新興国債券市況は、各国のインフレ率の減速やリスク選好度の高まりなどにより、新興国債券への選好が強まったことを受けて、多くの国で金利は低下（債券価格は上昇）しました。新興国為替相場は、F R B（米国連邦準備制度理事会）の金融引き締め観測から米国金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨は対円で上昇しました。

#### ・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、F R Bの金融引き締め観測から米国金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。

#### ・欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行の当局者が当面の政策金利据え置きを示唆したことや、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、国内の電力不足に対する懸念やロシアへの武器提供疑惑により、対円で下落（円高）する局面もありましたが、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

#### ・中南米地域

ブラジル・レアルは、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げ姿勢や高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



## ポートフォリオについて

(2023.1.24～2023.7.21)

## ■当ファンド

当作成期を通じて「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

## ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

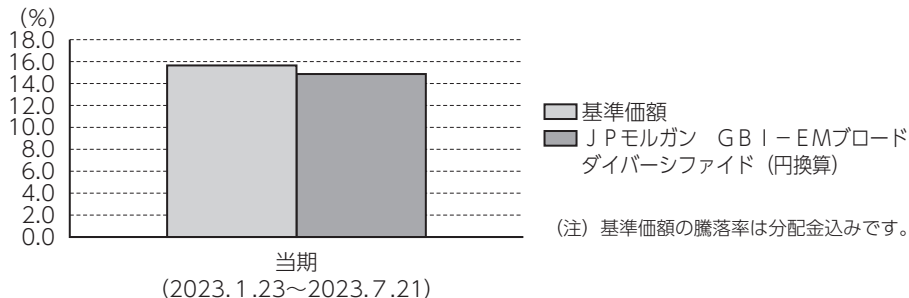
組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2023年1月24日 ～2023年7月21日	
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)		<b>200</b>
対基準価額比率 (%)		1.80
当期の収益 (円)		200
当期の収益以外 (円)		－
翌期繰越分配対象額 (円)		2,953

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当	期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	218.87円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益		0.00
(c) 収益調整金		1,015.62
(d) 分配準備積立金		1,919.36
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)		3,153.86
(f) 分配金		200.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)		2,953.86

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ短期国際機関債マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■ダイワ短期国際機関債マザーファンド

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2023.1.24~2023.7.21)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	74円	0.721%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,254円です。
（投 信 会 社）	(33)	(0.324)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(39)	(0.377)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.011	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0.007)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	75	0.732	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

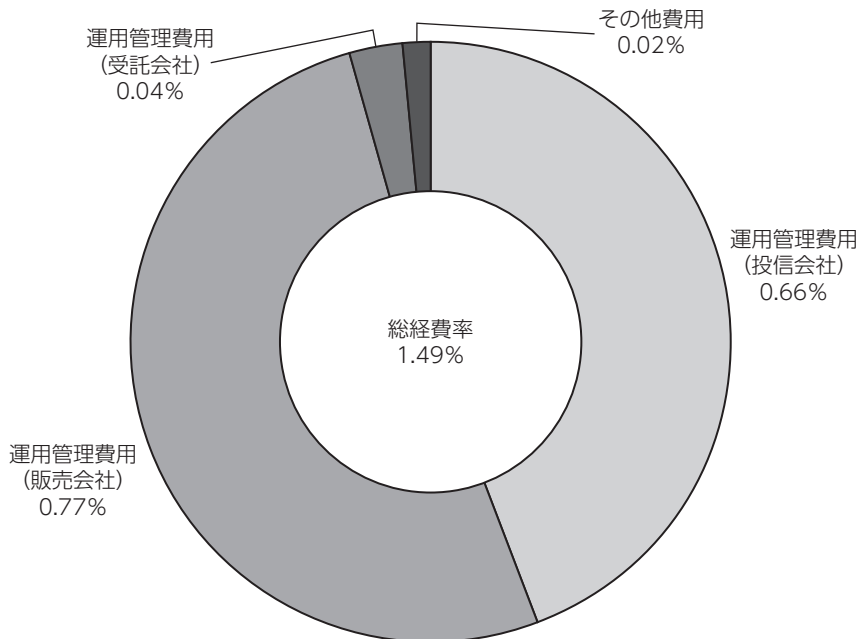
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.49%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2023年1月24日から2023年7月21日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ短期国際機関債 マザーファンド	117	151	673	823

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	□ 数	金 額	□ 数	評 価 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	16,877	16,321	20,753	20,753

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年7月21日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ短期国際機関債マザーファンド	20,753	96.8
コール・ローン等、その他	684	3.2
投資信託財産総額	21,437	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月21日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝140.09円、1メキシコ・ペソ＝8.30円、1インド・ルピー＝1.72円、100インドネシア・ルピア＝0.94円、1ブラジル・レアル＝29.178円、1南アフリカ・ランド＝7.81円、1ポーランド・ズロチ＝35.038円です。

(注3) ダイワ短期国際機関債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（780,926千円）の投資信託財産総額（782,294千円）に対する比率は、99.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年7月21日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	21,437,941円
コール・ローン等	684,615
ダイワ短期国際機関債マザーファンド(評価額)	20,753,326
(B) 負債	526,897
未払収益分配金	383,694
未払信託報酬	142,487
その他未払費用	716
(C) 純資産総額(A－B)	20,911,044
元本	19,184,704
次期繰越損益金	1,726,340
(D) 受益権総口数	19,184,704□
1万口当り基準価額(C/D)	10,900円

\* 期首における元本額は19,317,682円、当作成期間中における追加設定元本額は184,303円、同解約元本額は317,281円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,900円です。

■損益の状況

当期 自2023年1月24日 至2023年7月21日

項 目	当 期
(A) 有価証券売買損益	2,998,830円
売買益	3,026,220
売買損	△ 27,390
(B) 信託報酬等	△ 143,203
(C) 当期損益金(A+B)	2,855,627
(D) 前期繰越損益金	12,799
(E) 追加信託差損益金	△ 758,392
(配当等相当額)	( 1,948,447)
(売買損益相当額)	(△2,706,839)
(F) 合計(C+D+E)	2,110,034
(G) 収益分配金	△ 383,694
次期繰越損益金(F+G)	1,726,340
追加信託差損益金	△ 758,392
(配当等相当額)	( 1,948,447)
(売買損益相当額)	(△2,706,839)
分配準備積立金	3,718,457
繰越損益金	△1,233,725

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	419,905円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	1,948,447
(d) 分配準備積立金	3,682,246
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	6,050,598
(f) 分配金	383,694
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	5,666,904
(h) 受益権総口数	19,184,704口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	200円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

# ダイワ短期国際機関債マザーファンド

## 運用報告書 第17期 (決算日 2023年7月21日)

(作成対象期間 2023年1月24日～2023年7月21日)

ダイワ短期国際機関債マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

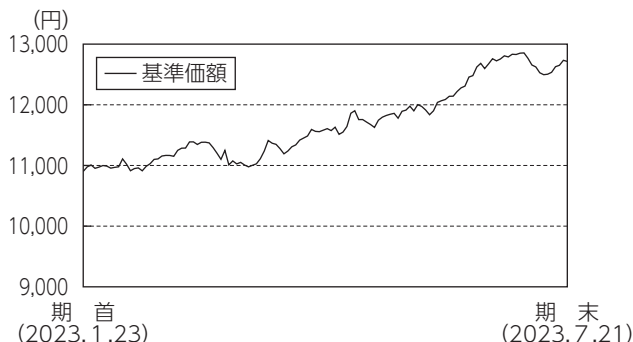
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	新興国通貨建ての国際機関債
株式組入制限	信託財産の純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		JPMorgan GBI-EM ブロード ダイバーシファイド (円換算) (参考指数)		公社債 組入比率	債券先物 比率
	円	騰落率 %	騰落率 %	騰落率 %		
(期首)2023年1月23日	10,902	-	11,351	-	94.0	-
1月末	10,989	0.8	11,501	1.3	87.9	-
2月末	11,285	3.5	11,659	2.7	94.5	-
3月末	11,412	4.7	11,812	4.1	94.9	-
4月末	11,642	6.8	11,995	5.7	96.3	-
5月末	11,914	9.3	12,404	9.3	96.1	-
6月末	12,833	17.7	13,173	16.0	95.3	-
(期末)2023年7月21日	12,715	16.6	13,039	14.9	96.0	-

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) JPMorgan GBI-EMブロード ダイバーシファイド(円換算)は、JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロード ダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、JPMorganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債組入比率は新株予約権付債券(転換社債券)を除きます。

(注6) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,902円 期末：12,715円 騰落率：16.6%

【基準価額の主な変動要因】

新興国通貨建ての国際機関債に投資した結果、多くの投資対象通貨が対円で上昇(円安)したことや債券価格の上昇、利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆ 投資環境について

○ 債券市況・為替相場

新興国債券市況は、各国のインフレ率の減速やリスク選好度の高まりなどにより、新興国債券への選好が強まったことを受けて、多くの国で金利は低下(債券価格は上昇)しました。新興国為替相場は、FRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め観測から米国内金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨は対円で上昇しました。

・ アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピーは、FRBの金融引き締め観測から米国内金利が上昇する中、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。

・ 欧州地域

ポーランド・ズロチは、中央銀行の当局者が当面の政策金利据え置きを示唆したことや、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

・ 中東・アフリカ地域

南アフリカ・ランドは、国内の電力不足に対する懸念やロシアへの武器提供疑惑により、対円で下落(円高)する局面もありましたが、日米金利差の拡大により円安が進行したことが上昇要因となり、対円で上昇しました。

・ 中南米地域

ブラジル・レアルは、日米金利差の拡大により円安が進行したことなどから、対円で上昇しました。メキシコ・ペソは、中央銀行による積極的な利上げ姿勢や高金利通貨としての魅力が上昇要因となり、対円で上昇しました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。

◆ ポートフォリオについて

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

組入通貨は、アジア地域ではインド・ルピーとインドネシア・ルピア、欧州地域ではポーランド・ズロチ、中東・アフリカ地域では南アフリカ・ランド、中南米地域ではメキシコ・ペソとブラジル・レアルとし、各地域へおむね均等になるように投資しました。

当作成期の債券ポートフォリオにつきましては、償還までの期間が短い国際機関債を中心に投資し、金利変動リスクを抑えた運用を行いました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当作成期の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、「当作成期中の基準価額と市況等の推移」をご参照ください。

《今後の運用方針》

主として、新興国通貨建ての国際機関債に投資することにより、信用度の高いポートフォリオ構築を行います。また、金利変動リスクに対してはデュレーションを短期に維持することによって、為替変動リスクについては通貨の地域分散によって、リスクの抑制を図って運用を行ってまいります。



■ 1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (保管費用)	1 (1)
(その他)	(0)
合計	1

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況  
公社債

(2023年1月24日から2023年7月21日まで)

			買付額	売付額
外	メキシコ	特殊債券	千メキシコ・ペソ 8,460	千メキシコ・ペソ ( 9,000)
	インド	特殊債券	千インド・ルピー 30,714	千インド・ルピー ( 29,988 -)
	インドネシア	特殊債券	千インドネシア・ルピア 11,941,788	千インドネシア・ルピア 12,216,470 ( -)
	ブラジル	特殊債券	千ブラジル・リアル 1,874	千ブラジル・リアル ( 369 2,000)
国	ポーランド	特殊債券	千ポーランド・ズロチ -	千ポーランド・ズロチ ( 623 -)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄  
公社債

(2023年1月24日から2023年7月21日まで)

当			期		
買	付		売	付	
銘柄	柄	金額	銘柄	柄	金額
		千円			千円
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関)	7.25% 2024/3/15	107,476	INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK (国際機関)	7.875% 2023/3/14	109,948
INTL. FIN. CORP. (国際機関)	6.3% 2024/11/25	54,672	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関)	6.5% 2023/6/19	53,378
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関)	6.75% 2024/2/4	49,110	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT (国際機関)	0.25% 2023/11/20	20,085
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関)	6.65% 2024/7/30	36,049	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関)	6.75% 2024/2/4	11,026
INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT (国際機関)	5.2% 2024/2/15	29,209			

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

ダイワ短期国際機関債マザーファンド

■組入資産明細表

(1) 外国 (外貨建) 公社債 (通貨別)

区 分	額 面 金 額	当 期				末			
		評 価 額		組 入 比 率	う ち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別		組 入 比 率	
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上		2 年 未 満
メキシコ	千メキシコ・ペソ 12,000	千メキシコ・ペソ 11,646	千円 96,662	% 12.4	% -	% -	% -	% 12.4	
インド	千インド・ルピー 45,500	千インド・ルピー 44,960	77,331	9.9	-	-	-	9.9	
インドネシア	千インドネシア・ルピア 11,800,000	千インドネシア・ルピア 11,851,920	111,408	14.2	-	-	-	14.2	
ブラジル	千ブラジル・リアル 3,190	千ブラジル・リアル 3,105	90,617	11.6	-	-	-	11.6	
南アフリカ	千南アフリカ・ランド 22,000	千南アフリカ・ランド 21,953	171,456	21.9	-	-	-	21.9	
ポーランド	千ポーランド・ズロチ 5,950	千ポーランド・ズロチ 5,798	203,174	26.0	-	-	-	26.0	
合 計	-	-	750,651	96.0	-	-	-	96.0	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日		
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			
					金 額	金 額			
メキシコ	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券 特 殊 債 券 特 殊 債 券	5.2000 6.6500 0.5000	千メキシコ・ペソ 4,500 4,500 3,000	千メキシコ・ペソ 4,322 4,352 2,970	千円 35,877 36,126 24,658	2024/02/15 2024/07/30 2023/09/05		
								銘 柄 数 金 額	3銘柄
								金 額	12,000 11,646 96,662
インド	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT INTL. FIN. CORP. INTER-AMERICAN DEVELOPMENT BANK	特 殊 債 券 特 殊 債 券 特 殊 債 券	4.6500 6.3000 5.0000	千インド・ルピー 4,000 31,000 10,500	千インド・ルピー 3,883 30,700 10,376	6,679 52,804 17,847	2024/10/16 2024/11/25 2024/02/12		
								銘 柄 数 金 額	3銘柄
								金 額	45,500 44,960 77,331
インドネシア	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT	特 殊 債 券	7.2500	千インドネシア・ルピア 11,800,000	千インドネシア・ルピア 11,851,920	111,408	2024/03/15		
通貨小計	銘 柄 数 金 額	1銘柄		11,800,000	11,851,920	111,408			
ブラジル	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT INTL. FIN. CORP.	特 殊 債 券 特 殊 債 券	6.7500 6.7500	千ブラジル・リアル 1,590 1,600	千ブラジル・リアル 1,559 1,545	45,512 45,104	2024/02/04 2024/08/27		
								銘 柄 数 金 額	2銘柄
								金 額	3,190 3,105 90,617
南アフリカ	INTL. BK. RECON&DEVELOPMENT EUROPEAN INVESTMENT BANK	特 殊 債 券 特 殊 債 券	- 8.5000	千南アフリカ・ランド 10,000 12,000	千南アフリカ・ランド 9,979 11,974	77,937 93,519	2023/08/02 2024/09/17		
								銘 柄 数 金 額	2銘柄
								金 額	22,000 21,953 171,456
ポーランド	EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT	特 殊 債 券	0.2500	千ポーランド・ズロチ 5,950	千ポーランド・ズロチ 5,798	203,174	2023/11/20		
								銘 柄 数 金 額	1銘柄
								金 額	5,950 5,798 203,174
合 計	銘 柄 数 金 額	12銘柄				750,651			

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年7月21日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	750,651	96.0
コール・ローン等、その他	31,643	4.0
投資信託財産総額	782,294	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、7月21日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=140.09円、1メキシコ・ペソ=8.30円、1インド・ルピー=1.72円、100インドネシア・ルピア=0.94円、1ブラジル・レアル=29.178円、1南アフリカ・ランド=7.81円、1ポーランド・ズロチ=35.038円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(780,926千円)の投資信託財産総額(782,294千円)に対する比率は、99.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年7月21日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	782,294,605円
コール・ローン等	14,543,543
公社債(評価額)	750,651,052
未収利息	15,237,138
前払費用	1,862,872
(B) 負債	-
(C) 純資産総額(A-B)	782,294,605
元本	615,232,695
次期繰越損益金	167,061,910
(D) 受益権総口数	615,232,695口
1万口当り基準価額(C/D)	12,715円

\* 期首における元本額は675,052,676円、当作成期間中における追加設定元本額は1,729,090円、同解約元本額は61,549,071円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(年2回決算型) - 成長の絆(年2回) - 16,321,924円  
 ダイワ短期国際機関債ファンド(毎月分配型) - 成長の絆 - 598,910,771円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,715円です。

■損益の状況

当期 自2023年1月24日 至2023年7月21日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	17,816,396円
受取利息	17,808,289
その他収益金	8,734
支払利息	△ 627
(B) 有価証券売買損益	98,719,562
売買益	102,279,725
売買損	△ 3,560,163
(C) その他費用	△ 53,852
(D) 当期損益金(A+B+C)	116,482,106
(E) 前期繰越損益金	60,875,986
(F) 解約差損益金	△ 10,610,025
(G) 追加信託差損益金	313,843
(H) 合計(D+E+F+G)	167,061,910
次期繰越損益金(H)	167,061,910

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。